

R06 科振未来創第 303-1 号

令和 7 年 2 月 3 日

信州大学 工学部
特任教授 田中 宏明 様

国立研究開発法人科学技術振興機構
未来創造研究開発推進部
部長 舘澤 博子
(公印省略)

**令和 6 年度未来社会創造事業 探索加速型
第 2 次ステージゲート評価結果について**

平素より未来社会創造事業にご尽力賜り、厚くお礼申し上げます。

今般、「世界一の安全・安心社会の実現」領域の研究開発運営会議において審議した結果、ステージゲート評価を通過いたしましたことをお知らせいたします。

なお、詳細は別添のとおり書面をもってお知らせいたしますので、ご査収ください。

以上

信州大学 工学部
特任教授 田中 宏明 様

未来社会創造事業「世界一の安全・安心社会の実現」領域
運営統括 田中 健一

令和6年度 未来社会創造事業「世界一の安全・安心社会の実現」領域
「生活環境に潜む微量な危険物から解放された安全・安心・快適なまちの実現」
第2次ステージゲート評価結果について

研究開発運営会議における貴研究開発課題「健全な社会と人を支える安全安心な水循環系の実現」の第2次ステージゲート評価結果について、以下の通りお知らせします。

【結果】

A 評価基準を満たしており、今後の研究開発に大きな懸念はない

【総評】

本研究開発課題では、人や社会と環境中で循環する水を総合的に捉え、ウイルスや細菌、化学物質など様々な健康リスクに対応して誰もが安全安心に水利用できる社会の実現を目指している。

各研究項目で中間目標は達成し、一部では前倒しで成果を挙げている。特に下水疫学においては、高感度化や感染者数の予測モデル構築、新型コロナウイルス以外の幅広いウイルスの検出系を確立するなど学術的に優れた成果を多数創出した。さらに、自治体と連携して技術移転を行い、早期に社会実装を実現しており、高く評価する。また、各研究成果の取りまとめとして、健康リスクの管理・評価、リスクコントロール手法のガイドライン化にも着手し、研究成果の活用について適切に検討されている。上下水道行政の再編が行われる中、関係省庁との意見交換や公開シンポジウムを通して社会情勢を研究計画に反映させ、研究開発を推進している点も評価できる。

今後は、研究成果を社会実装する際の費用対効果や費用負担について、行政の動向を把握しながら検討を進め、研究成果の全体像を示すことが求められる。さらに、安全安心な水利用の実現に向けて、研究成果を自治体だけでなく広く一般にもこれまで以上に発信するよう努めていただきたい。

以上